

大学初年次教育におけるオムニバス調査の試み

横浜市立大学データサイエンス学部 土屋 隆裕

1. 横浜市立大学における教養ゼミの目的と概要

横浜市立大学では、全ての入学者は32あるクラスのいずれか一つに配属され、「教養ゼミ」を履修することが基本的に必須となっている。教養ゼミの目的はいくつかあるが、自ら見出した問題に対して仮説を設定し、証拠に基づいてその真偽を検証した上で、問題に対する考察を行うという調査研究の基本的な枠組みを理解することを求めている。そのため教養ゼミでは、実際に学生が自ら選んだテーマについて調査研究を行い、その成果を口頭発表するとともに、最終的にはレポートとして提出することとなっている。

2. オムニバス調査の狙いと方法

2.1 オムニバス調査の狙い

教養ゼミの目的に沿った形での研究発表を促すため、2018年度からオムニバス調査を試行することとした。オムニバス調査とは、いわゆるアンケート調査であり、複数の学生から個別に提出してもらった調査項目を一つの調査票にまとめたものである。教養ゼミを受講している全学生にこの調査票に回答してもらい、その結果の個票データを学生に提供し、活用してもらう。オムニバス調査を利用すれば、学生は自らの仮説を検証するための独自のデータが入手可能となる。

2.2 オムニバス調査の方法

オムニバス調査の具体的な方法は以下のとおりである。

- 調査は5月から7月まで、2018年度は全9回、2019年度は全6回実施した。
- 利用を希望するクラスから調査項目を提出してもらい、学内関係者のみがアクセス可能なYCUポータル機能を用いて、Web調査票にまとめる。
- 学生は、学籍番号を用いてYCUポータルにアクセスし、Web上で調査に回答する。つまり回答者は特定される。なお回

答はスマホなどのモバイル端末からでも可能である。

- 回答は、学籍番号を用いて前回までの全ての回答とつなげてパネル化する。個票データは学籍番号等を削除して匿名化し、YCUポータル上で誰でも利用可能な形で公開する。なお、データは基本的に毎朝更新する。

3. オムニバス調査の実施結果

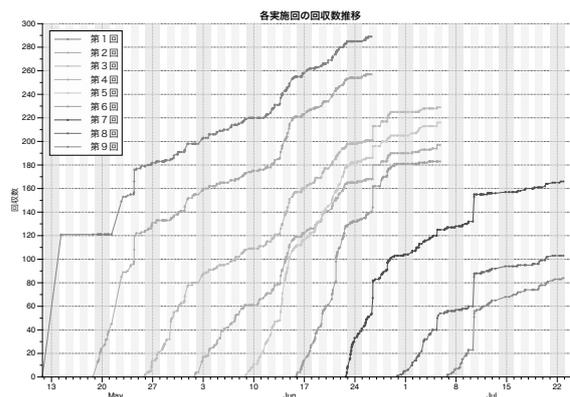
3.1 調査項目

2018年度は延べ28クラス、実質15クラスから調査項目の提出があった。各回の調査項目数は8項目から41項目までであり、合計すると245項目が提出された。

2019年度は全6回の予定のうち、4回目までの実施で391項目が提出された。

3.2 回答者数

下図は、2018年度の各回の日ごとの累積回答学生数である。各回の最終的な回答学生数は漸減し、最初の第1回目は283名であったが、最後の第9回目は84名であった。



4. 今後に向けた課題

オムニバス調査を試行した結果、回答者数の確保、提出される項目の精度向上、教員の負担軽減と教員からの支援といった今後に向けた課題が明らかとなった。